

# 出張報告書

令和5年8月14日

市議会議長 松本 妙子 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 南加代子

下記のとおり報告します。

## 記

- 1 目 的 「自転車活用推進計画」について  
認知症対策について
- 2 出張先 愛媛県今治市、高知県香南市
- 3 出張期間 令和5年8月1日 ～令和5年8月2日
- 4 出張者氏名 南加代子、米田貴志、岩崎雅秋、桑原佳一  
友永修
- 5 てん末報告 別紙の通り

## 視察報告書

視察報告書作成者

公明党:米田貴志

視察先:愛媛県今治市

テーマ:「自転車活用推進計画」について

視察日:2023年8月1日(火)

説明者:今治市総合政策部 交通振興局 サイクルシティ推進課

課長 瀬野敦司 氏 課長補佐 槇 瑞由 氏

この計画の策定の経緯は、国において2017年に施行された「自転車活用推進法」と、「愛媛県自転車新文化推進計画」を県が策定したことを受け、2020年3月に策定・公表された。そして翌2021年には、今治市が独自で改定している。

基本理念は官民一体で自転車の活用推進に努め、誰もが安心して自転車を利用できるまちづくりを進めるとともに、愛媛県が提唱する「自転車新文化」を推進し、市民生活の向上を図ろうとするものである。

尚、今治市では「今治市サイクルシティ推進計画」と名付けられている。このネーミングや、名刺に記された担当部門からも、その意気込みを充分に感じ取れるものである。加えて、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインに基づく「今治市自転車ネットワーク計画」も、その計画内に位置づけられている。簡単に言えば、今治市内外のサイクリストが、利用しやすい環境整備を進めることが、しっかりと位置づけられている。そして目指す方向として、ナショナルサイクルルートとして選定されたルートを核としてサイクリング環境のグローバル化を図り、日本における自転車を活用したまちづくり、それも全国屈指の姿とするため「サイクルシティ IMABARI」を目指す事に主眼をおいている。

また、サイクリング関係は、今治市の上位計画である総合計画の基本構想にも以下のように定められている。

施策の大綱6「誇りに思える魅力があふれるまちづくり」

(2)魅力ある観光資源をいかした、交流とにぎわいの基盤づくり。

しまなみ街道沿線地域において、「サイクリストの聖地」としての更なる知名度向上に向けたサイクリング進行を図るため、サイクリストの受け入れ施設の整備やサイクリングガイドの要請など、利用促進と利便性向上を図り、市域全体におけるいまばり「サイクルシティ構想」による自転車文化の普及に向けた取組みを推進します。

また、同基本計画には「魅力ある観光資源をいかした、交流とにぎわいの基盤づくり」の現状と課題、そしてそれらをリカバーする取組みとして「サイクルシティ構想の推進」とされ、主な取組み内容が記載されている。

加えて、総合計画を踏まえた総合戦略には「サイクルシティ構想の推進」を推進する具体的な数値目標を掲げた事業内容と、目的達成に向け実施する事業が記載されている。

これらのことから、ただ恵まれた環境下にあるだけに止まらず、今治市が、市を上げて自転車を

活用し、交流人口の増、そして経済効果の波及、転入人口の増を図ろうとしていることが読み取れる。しかもそのマーケットを、国内に止まらず、世界においている事も読み取れる。

さて、この「今治市サイクルシティ構想」は以下の4つの目標と16の施策により構成されている。

【目標1】自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成。

施策1…自転車通行空間の計画的な整備促進

施策2…違法駐車取り締まりの促進及びニーズに応じた駐輪場の整備

施策3…シェアサイクルの普及促進

施策4…まちづくりと連携した総合的な取組み

・成果指標(2019年度→2025年度)

ナショナルサイクルルート指定に伴う自転車通行空間の整備延長 60m→18,550m

【目標2】サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現

施策5…サイクルスポーツ振興の推進

施策6…自転車を活用した健康づくりの推進

施策7…自転車通勤などの促進

・成果指標(①2018年度、②2019年度→2025年度)

①通勤時の自転車分担率 13.2%→15.3%

②愛媛サイクリングの日イベント来場者 420人→1,100人

【目標3】サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現

施策8…国際的なサイクリング大会の実施

・成果指標(2017年度→2025年度)

①レンタルサイクル利用者数 66,372人→77,000人

②サイクリングターミナル宿泊者数 9,447人→10,200人

施策9…世界に誇るサイクリング環境の創出

施策10…自転車を活用したまちづくりを推進するための連携

【目標4】自転車事故の少ない安全で安心な社会の実現

施策11…安全性の高い自転車普及の促進

施策12…自転車の点検整備の促進

施策13…自転車の安全利用の促進

施策14…学校における交通安全教育の推進

施策15…災害時における自転車活用の推進

施策16…保険などの加入を促進させる取組み

・成果指標(2018年→2025年)

自転車事故の発生件数 74件→※交通事故発生件数全体の減少割合を超える割合を目標。

全ての施策や事業を記載できないが以下、説明を頂いた主な内容を記載する。

尚、今回の視察で訪問させて頂いた今治市のサイクリングターミナル「サンライズ系山」は、【目標3】の施策9に記された一つの事業を展開する施設である。

この施設は全国に設置されているサイクリングターミナルの一つで、瀬戸内しまなみ海道の今治市側の顔となる中心拠点であり、指定管理（一般財団法人今治福祉事業団）で運営されている。事業内容は以下の通り。

- ・宿泊事業（洋室 14、和室 5：定員 70 名）
- ・レストラン事業
- ・レンタサイクル事業（R4 年からしまなみジャパンが運営）
- ・レンタサイクル 326 台保管（別途 186 台あり）

この他にも同施策の展開で、「今治駅前サイクリングターミナル」が運営されている。これはもともと、平成 23 年から 9 年間、駅前において臨時的にレンタサイクルターミナルを運営。その需要などが伸び、外国人利用者の比率も高いなどの検証結果にもとづき、令和 2 年 7 月にオープンしている。（レンタサイクル 100 台：別途、乗り捨てサイクル受け入れ 70 台）

- ・自転車組み立てスペース
- ・自転車洗車スペース
- ・更衣・シャワー室
- ・公衆トイレ
- ・交流スペース、観光インフォメーションセンター

さて、多くのサイクリストを受け入れるために重要な取組みとしては、自転車通行空間の整備が上げられる。これは今治市サイクルシティ推進計画の【目標 1】の施策 1 でかかげられている。その取組みとして、しまなみ海道を利用するサイクリストを今治市中心まで誘導する道路（市道北宝来近見線を主要路線と位置づけ）の幅員構成の見直し、自転車専用通行帯の設置。国県道への同整備の働きかけ、令和 10 年度末に 2.8km 全面供用開始。

また、しまなみ海道サイクリングロード推奨ルートの道路にブルーライン（方向表示）や距離表示（今治～尾道間、1km 毎に設置）、距離標（主要地点までの距離と方向表示）が設置されていて、利用者が迷わないよう取組んでいる。もちろん緊急時に位置情報を伝えるため、警察、消防、レンタサイクル事業者とも連携した表示板（ロケーションマーカー）が 500m 毎に設置されている。この他にも交差点のサイクルステップ（愛媛県の取組み：実証実験）、人気展望台へのアクセス道路に安全走行誘導シート、おもてなしメッセージ、頂上までの距離及び勾配表示等もされている。

走行する中、途中休憩を取れる場所として地域住民参加型の「しまなみサイクルオアシス」が指定（今治市 87 カ所、尾道市 135 カ所）されていて、マイボトルへの給水、空気入れ、トイレ、情報などを得ることができる。加えて、愛媛県とコンビニの連携協定により、コンビニを活用したサイクルオアシスが県内に 73 店舗（うち今治市 18 カ所、尾道市 5 カ所）もあり、店舗に幟またはステッカーで表示されている。また、これらに加えて、今治市では CYCLE PIT 事業として市内のコンビニと提携し、現段階ではフロアポンプのみを設置しているが、今後は、おもてなし環境整備を進めている。加えて、大手飲料メーカーと提携し、国内初となるパンク修理キットの入った飲料水の自販機も設置。今後はニーズを踏まえ他のグッズも販売する計画あり。

もちろんの事ではあるが、サイクリストが休憩などの際に自転車を止めるサイクルスタンドは市内

34 施設に 100 基設置されている。これらは【目標 3】の施策 9 の展開でもある。

また、これまで記載してきたハード整備意外にも計画に則った取組みが展開されている。

例えば、海外トップレベルの台湾自転車道（日月潭サイクリングコース）と姉妹自転車道協定。国内においては、ナショナルルートの一つであるピワイチを構成する守山市、やんばるサイクリングの名護市と連携協定を結んでいて、今ではその3市を結んだ下記のルートイメージで、Japan Cycling Golden Root と題しての商品開発を手がけている。

那覇空港 in⇒名護市(やんばるサイクリング)⇒沖縄観光⇒広島空港⇒しまなみ海道サイクリング⇒フェリー/電車(新幹線など)⇒守山市(ピワイチ)⇒京都観光⇒関西国際空港 out で 9 泊 10 日の行程のイメージとのことで、将来的には西日本エリアをサイクリングのゴールデンルートにとの思惑があるようである。

お気づきのように、これが実現すれば、“世界に一番近い城下町・岸和田”をはじめ、泉州の各市町は通過されてしまう。JCGR のゴールとされている関西国際空港は、泉州サイクルルートが直結していることから、ここは是非とも今治市と様々な形で連携を図り、自転車関連での協定を結ぶべきである。そして、我々が、ここ泉州が、日本を訪れた世界のサイクリストが駈けるラストランルート、もしくはフィニッシュルート、また逆に、関空から受け入れるなら、ウェルカムルート、もしくはファーストランルートとしての位置づける事を、連携しながら目指す事が必要ではないかと考える。

ただ、課題としては、ご承知の通り、関空連絡橋は自動車専用の高速道路で、現在は徒歩や自転車で渡ることは不可である。この改善については大変にハードルが高く、大きな力が必要となり、そう簡単には改善できるものではないが、万が一、何らかの条件設定の上で、通行可能となれば、サイクリストにとって、大きな魅力となることは相違ないものと考ええる。

また、他の手段として、りんくうタウン駅から JR もしくは南海電鉄、もしくは関空周辺のホテル発のシャトルバスなどのご協力を仰ぎ、自転車の搭載を可能とする事も一つの方法である。そして、これらの条件整備が整えば、今治市やしまなみ海道との連携協定に向けた大きな後押しになるものと考ええる。

卵が先か、鶏が先か、ではないが、KIX 泉州ツーリズムビューローとしても、9 市 4 町を貫くルート設定を持って是非とも取り組むべきと課題と考える。

Japan Cycling Golden Root が完成する暁には、泉州サイクルルートが重要な構成ルートとして世界に発信されることを願わずには居られない。そうなれば、KIX 泉州ツーリズムビューローを構成する市町の独自のサイクルルートも大きくクローズアップされるチャンスに恵まれ、そこから様々な方面に、賑わいや経済効果が派生するのではないか。

因みに、第 2 次ナショナルルートに選定された太平洋岸自転車道(千葉県銚子市から和歌山加太<約 1,487km)にも繋げることは可能と考える。

では、今治市との連携や協定に向けた可能性について考えると、自転車を通じての交流は皆無かと言えば、そうでもない。実は岸和田市をはじめ、堺市、貝塚市、泉佐野市、岬町が「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村の会」に加盟している。これは自転車による観光振興、住民の健康増進、交通の混雑緩和、環境への負荷の低減などにより、公共の利益を増進し、地方創生を

図ろうとする自治体が連携して、情報交換や共同の取組みを進めることで日本の自転車文化の向上、普及促進を図ると共に、各地域が取組む地方創生推進の一助となる事を目的に設立されており、今治市はこの団体の重要な位置を占めていることから、鑑みると、その可能性がゼロではないことは確かである。その様な機会を通じて、積極的にアプローチする事も必要である。

また、他方で、KIX 泉州ツーリズムビューローに参画している市町で、この団体に参画されていない市町には参画を促すことも必要と感じる。

さて、積極果敢な今治市は、プロモーション事業を展開するのは当然のことながら、世界的な自転車競技の誘致にも尽力し成功を納めている。

#### ・瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」

2013年(H25年)にプレ大会(参加者 2,560名)

2014年(H26年)大会 10コース(参加者 7,281名:うち海外 525名<31カ国地域>)

総事業費?(今治市負担額:0円)

経済効果:約 14億 6千万

2016年(H28年)大会 5コース(参加者 3,288名:海外 251)※中規模開催

総事業費?(今治市負担額:2,353万円)

経済効果:約 5億 3千万

2018年(H30年)大会 7コース(参加者 7,215名:うち海外 700名<21カ国地域>)

総事業費 3億 8,333万 9,685円(今治市負担額:5,486万円 9千円)

経済効果:約 9億 3千万

2020年(R2年)大会 コロナで中止

2022年(R4年)大会 8コース(参加者 6,371名:うち海外 180名<33カ国地域>)

総事業費 4億 1,835万 9,616円(今治市負担額:5,940万 8千円)

経済効果:約 9億

#### ・今治クリテリウム

R4年 JBCF/J プロツアーポイント最終戦

11チーム(67選手が参加)

この他にも今治市は市内のアウトドア&アクティビティフィールドや点在している観光資源をサイクリングで繋ぐ事業にも注力し、サイクリストのみならず、アクティビティ愛好家にもサイクリングに興味を抱かせるよう取組んでいる。(＋CYCLE事業)。

一方で、今治市における自転車文化普及において、市民への安全な利用を促す取組みも展開している。そのベースとなるのが、「今治市自転車の安全な利用の促進に関する条例」である。また、市内小中学校向けに自転車の交通安全教育も積極的で、民間企業の協力の下、展開されている。加えて、中学に進学する児童を対象に自転車等購入クーポン交付事業、幼児及び高齢者自転車

用ヘルメット購入補助などの支援も行なっている。

さて、これまで説明を受けてきた推進計画記載の事業は、すべてが日本一の自転車のまち、サイクルシティ構想を実現するための取組みであることが明確に見えていて、ハードやソフト整備が計画に基づいて着々と進んでいる事がわかった。これら計画を進めるために官民一体となった「今治市サイクルシティ推進協議会」もサイクルシティ IMABARI を目指し大きな後押しに繋がっている。羨ましい限りである。

では、本市ではどうなのか、交通まちづくりアクションプランの中に「自転車活用推進計画編」と記されている。もちろん、本市でも今治市と同様に 4 つの大きな目標が掲げられている。今後、その進捗を見守りながら、特に【目標 2】における〈施策 2-1〉BMX コースの整備、〈施策 2-2〉岸和田競輪場及びサイクルピア岸和田の活用、〈施策 2-5〉自転車活用による健康作りの推進、【目標 3】における〈施策 3-1〉サイクルスポーツの振興、〈3-2〉サイクルツーリズムの推進などには特に注視をして参りたい。

また、本市が取組むこれらの施策のお手本として、今治市の取組みが大変に勉強となった事に相違ない。

今治市さんの説明が終わり、私は「今治市さんは、名だたるコースを有する市町以外とでも協定を結ぶ考えがあるのか」と尋ねた。担当者は「まだ、(その市町が)自転車に特化できていないとしても、試行錯誤されている。その過程で見習うべきところも沢山あると思うので、共に情報交換しながら自転車文化を発展させることができればと考える。」との事であった。是非とも、情報交換できるよう、まずは連携が取れる体制の構築にも取組みたい。その意味からも、是非とも職員間の交流を持つべきであると提案しておく。

〈最後に〉

日本を代表するサイクルコース「しまなみ街道」は、令和元年 11 月に国のナショナルルートの指定を受け、サイクリストの憧れの三大コースの一つとなっている。天候に恵まれれば、青い空に青い海、そして緑豊かに点在する島々を眼下にしなが、瀬戸内の優しい風を感じて疾走するルートは、まさに自然界の贈り物とも言えるのではないだろうか。

ご承知の通り、瀬戸内しまなみ街道(西瀬戸自動車道)は、車だけで無く、自転車や徒歩でも渡る事が可能である。

サイクリングルートとなれば、最短で 70km で、今では国内外から多くのサイクリストが訪れている事もあり、海外メディアでも取り上げられ、米の CNN による世界 7 大コースの一つに選ばれた。

その様な恵まれたルートを抱える今治市。それだけでも、一定の交流人口の増加や地域の賑わいに繋がる事は明らかであるが、何もしなければ、衰退する事もあり得るだけに、大きなプレッシャーも抱えている事になっているのではないだろうか。

その様に考えると、今治市では、どのようにサイクリストを呼び込み、地域経済への発展や賑わいづくりに向けたブラッシュアップを図っているのか、規模はまったく違うが、泉州サイクルルートを構成する市として、また、BMX コースが併設された唯一無二の競輪場を運営する本市として、新たな視

点となる学ぶべきものがあるのではないかと考え、この度、思い切ってサイクルコースの王様に視察を願い出て学ばせて頂いた。

日本でも最も恵まれたコースの一つを擁する今治市は、市を上げて知恵を絞り、民間も大きく巻き込んで、サイクリスト誘致に取り組んでおり、結果的にしまなみ海道沿線にはホテル、カフェなど民間資本の参入に加え、移住者も増やしている。愛媛県のバックアップもさることながら、まさにサイクリストの聖地を目指す最もアクティブな王様である事が、その取り組みを通して実感するものであった。これからも益々発展的变化を遂げるであろう「しまなみ海道」を構成する今治市に、是非とも注目していきたい。

#### 参考資料編

今治市における主な自転車関連(直近3ヵ年)の費用(決算ベース)※2023年は予算ベース

〈2023年〉5億5,168万5千円

〈2022年〉2億5,555万7千円

〈2021年〉2億3,411万円

ー主な事業ー

・サイクルシティ推進事業費(単位:千円)

〈2023年〉3,392万4千円 〈2022年〉1,171万6千円 〈2021年〉1,138万3千円

・しまなみ海道自転車道利用促進事業費(自転車道料金無料化)

〈2023年〉464万3千円 〈2022年〉400万円 〈2021年〉449万9千円

・サイクリング関連施設管理費(サンライズ系山等)

〈2023年〉8,569万3千円 〈2022年〉8,489万9千円 〈2021年〉1億6,062万6千円

・放置自転車等対策費

〈2023年〉917万1千円 〈2022年〉896万6千円 〈2021年〉838万4千円

・今治市サイクリングターミナル駐車場整備費

〈2023年〉6,789万9千円 〈2022年〉2,019万6千円 〈2021年〉770万8千円

・サイクリングしまなみ2024実行委員会負担金(事務局:愛媛県)

〈2023年〉280万7千円 〈2022年〉5,654万8千円 〈2021年〉286万1千円

・一般社団法人しまなみジャパン負担金

〈2023年〉2,100万円 〈2022年〉2,348万6千円 〈2021年〉2,858万4千円

・北宝来近見線自転車道整備費(2023年は2022年繰越+2023年)

〈2023年〉3億2,654万8千円 〈2022年〉4,574万4千円 〈2021年〉0円

しまなみ海道サイクリング来訪客数(観測調査・レンタサイクル貸出実績による推計)

2012年度推計値 174,935人(1日平均479人)

2015年度推計値 325,853人(1日平均892人)

2018年度推計値 332,683人(1日平均911人)



### レンタサイクル貸出実績(海外訪問者)

2015年度 135,299台のうち9,331台(14.4%)  
2016年度 141,205台のうち14,318台(10.1%)  
2017年度 149,740台のうち15,527台(10.3%)  
2017年度 132,075台のうち17,188台(13.0%)  
2019年度 149,365台のうち23,547台(約15.7%)

### 海外からの来訪者の在住国

【2015年度】	【2019年度】
1.台湾	1.台湾
2.香港	2.オーストラリア
3.韓国	3.アメリカ
4.アメリカ	4.フランス
5.イギリス	5.香港
6.ドイツ	6.イギリス
7.カナダ	7.ドイツ
8.オーストラリア	8.オランダ
9.中国	9.カナダ
10.フランス	10.中国

# 公明党（会派）行政視察レポート

報告者

桑原 佳一

視察先	香南市	テーマ	認知症対策について
日時	令和5年8月2日（水）10時00分～11時15分		
<p>市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について</p> <p>共生社会の実現を推進するため、先の通常国会で「認知症基本法」が成立、その理念の下、認知症の人々が社会に参画し、希望を持って暮らせる地域づくりの進展が期待されます。</p> <p>令和4年10月に古民家を利活用して、事業所「はっぴい」を設立した山中代表自身、令和元年に若年性認知症と診断され、自らを含む認知症の人々の居場所づくりを模索していた。そんな中でデイサービスに就労を取り入れている、デイズ BLG はちおうじの取り組みに出会い、それを参考に「はっぴい」を高知県香南市で設立しました。働けるデイサービスとして地域密着型通所介護の事業所を運営し、地元企業などからの仕事を受けて、認知症の人を含む利用者らが、生き生きと活動しています。活動内容は、マンションの清掃、自動車販売店での洗車、みかん畑での収穫作業などを実施しています。厚生労働省は、平成30年7月に認知症の人が仕事をして謝礼が受けらる有償ボランティアについて、認める通知を出しています。</p> <p>認知症になっても住み慣れた町で、安心して生き生きと暮らせる居場所づくりが重要であり、本市においても複数の居場所づくりと市民への情報提供が必要と思われる。</p>			